

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の結果及び改善について

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、4 月に 6 年生を対象に行いました全国学力・学習状況調査の結果について、全国と本校の調査結果を比較する等、分析を行い、本校の課題と改善の方向についてまとめましたのでお知らせいたします。

調査結果及び分析から見える課題は、学校全体のものと捉え、今後、全学年を通じて授業改善に努めて参ります。

【国語】 調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【内容】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◆全国平均を下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

◆全国平均を下回っている。

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均を下回っている。

「書くこと」

◆全国平均を下回っている。

「読むこと」

◆全国平均を下回っている。

→ 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。

→ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

→ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。

→ 引用したり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

→ 目的に応じて、必要な情報を見付けること。

→ 実際に話したり聞いたりする中で触れてきた、比喻や反復、倒置などの表現の工夫についてまとめて整理する学習活動の充実。

→ 複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだり図示することによって、考えを明確にしたり、思考をまとめたりする学習活動の充実。

→ 情報を整理・分析したり筋道の通った構成を組み立てたりする力や、聞き手を意識する力を身に付けるための、メモを使って話す準備をしたり、話し合いの結果をフィードバックし合ったりする学習活動の充実。

→ 正しく引用・処理するための知識や自分の考えをつなぎ合わせて筋道の通った文章を書けるようになるために、引用メモを作ってから文章を組み立てたり、書いた文章を友達と読みあってフィードバックし合ったりする学習活動の充実。

→ 読む目的を明確にし、筆者の考えや文章の中で挙げられている事例、読み手自身の経験など、複数の情報を取捨選択・整理・再構成しながら考える学習活動の充実。

【算数】 調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

「数と計算」

- ◆全国平均を下回っている。

「図形」

- ◆全国平均を下回っている。

「測定」

- ◆全国平均を下回っている。

「変化と関係」

- ◆全国平均を下回っている。

「データの活用」

- ◆全国平均を下回っている。

→整数と小数の減法の計算をすること。
($6.37-5$ $5-3.76$)

→立方体の体積の計算による求め方について理解すること。
例) 一辺が8 cm の立方体の体積を求める式を書く。

→示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること。
例) 昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く。

→百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めること。
例) イシガメ 14 匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く。

→示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できる。

→くり下がりのある引き算を定着させ、「位をそろえる」「空位に0を補う」「解の正しい位置に小数点を打つ」ことを確認しながら練習問題に取り組む。

→平面図形の求積を定着させ、単位体積の感覚をつかんだり、複雑な形を分解・変形して考えたりする学習活動の充実。

→図に数字を書き足して問題を整理したり、文章問題を読んで正しく式をたてて計算したりする学習活動の充実。

→何が基準(1倍)なのかを見抜く力を定着させるとともに、数値の関係性を図で表したり、□や x を使って正しく式を立てて計算し、答えを求めたりする学習活動の充実。

→問題文と表から情報を整理するとともに、2つの表がどうつながっているかを考えたり、合計の値などを頼りに矛盾に気付いたりする力を身に付ける学習活動の充実。

【児童質問調査の結果の概要】

《人間尊重の教育に係る質問》

自分にはよいところがあると思う子どもの割合は、昨年の調査と比べ 10.8 ポイント、全国平均より 16.1 ポイント、減少している。

	本校	全国
令和 6 年度	75.4	
令和 7 年度	80.3	
令和 8 年度	69.5	85.6

	本校	全国
令和 6 年度	83.6	
令和 7 年度	89.7	
令和 8 年度	88.9	85.7

学校に行くのは楽しいと思う子どもの割合は、昨年の調査と比べ 0.8 ポイント減少しているが、全国平均より **3.2 ポイント上回っている**。

◇今後も子どもが安全に、楽しく学校生活を送ることができるように、今後も「**徹して一人を大切に**」を合言葉に、安心・安全な学級・学年・学校風土の醸成し、子どもたちの心理的安全性を保障した学校を目指していく。

◆子どもの「**学ぶ力**」と「**自己肯定感・自己有用感**」を育成していけるように、たとえ正解にたどり着かなくても思考回路を価値づける関わりを続け、粘り強く人と関わり続ける心の体力や考え続ける頭の体力を培える教育活動を継続していく。

《さっぽろっ子自治的な活動に係る質問》

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した子どもの割合は、昨年の調査と比べ 13.7 ポイント、全国平均より 9.7 ポイント下回っている。

	本校	全国
令和 6 年度	76.4	
令和 7 年度	81.3	
令和 8 年度	67.6	77.3

あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う子どもの割合は、昨年の調査と比べ 6.3 ポイント、全国平均より 9.3 ポイント下回っている。

	本校	全国
令和 6 年度	68.2	
令和 7 年度	78.5	
令和 8 年度	72.2	81.5

◆全国平均や昨年度と比較して、スコアの大幅な減少が見られる。子どもが集団づくりや社会のためによりよい方法を考える機会を確保していくために、**カリキュラムマネジメントを推進**していく。

◆学校生活をよりよくするために、各教室で**学級会**などの取組の充実を図る。

◆子どもたちの自治的な活動について、**①子どもの可能性を信じ抜き、②ありのままを受け入れながら、③励まし続け、④どこまでも支えながら、⑤心をつないでいく**関わりを今後も続けていく。

《課題探究的な学習に係る質問》

〈主体性〉の視点

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う子どもの割合は、昨年の調査と比べ 5.3 ポイント、全国平均より 8.2 ポイント下回っている。

	本校	全国
令和 6 年度	73.6	
令和 7 年度	74.7	
令和 8 年度	69.4	77.6

〈協働探究〉の視点

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した子どもの割合は、昨年の調査と比べ 6.5 ポイント、全国平均より 7.2 ポイント下回っている。

	本校	全国
令和 6 年度	85.4	
令和 7 年度	90.7	
令和 8 年度	84.2	91.4

〈リフレクション（振り返り）〉の視点

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う子どもの割合は、昨年の調査と比べ 4.3 ポイント、全国平均より 11.7 ポイント下回っている。

	本校	全国
令和 6 年度	71.8	
令和 7 年度	71.0	
令和 8 年度	66.7	78.4

〈自分の考え〉の視点

授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと思う子どもの割合は、昨年の調査と比べ 16.3 ポイント、全国平均より 14.5 ポイント下回っている。

	本校	全国
令和 6 年度	54.6	
令和 7 年度	68.2	67.6
令和 8 年度	51.9	66.4

〈各教科に係る質問〉

	本校	全国
国語の勉強は得意ですか。	50.9	60.4
国語の勉強は好きですか。	52.8	57.4
算数の勉強は得意ですか。	35.2	60.1
算数の勉強は好きですか。	40.7	57.6
英語の勉強は得意ですか。	58.3	59.8
英語の勉強は好きですか。	78.7	66.7

- ◆他教科に比べ、特に算数に対する困り感が大きいという実態を受け、**特に算数の基礎的な学力を向上させていけるような**個別のかかわりや家庭学習の充実といった取組を推進していく。
- ◆**自分の考えを友達に伝える機会を確保**するために、ペアワークやグループ活動など少人数での学習機会を増やしていけるようにする。
- ◆見通し→行動→振り返りといった反復的な学習プロセス（AARサイクル）になるように、児童による**振り返りなどが、次の学びにつながっていく学習**を推進していく。

《ICTの活用に係る質問》

	本校	全国
タブレットなどで文章を作成(文字、コメントを書くなど)することができると思う。	78.7	79.1
インターネットを使って情報を収集(検索する、調べる)することができると思う。	87	84.9
タブレットなどを使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思う。	70.4	69.5
タブレットなどを使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う。	72.2	74.6

◇どの設問においても、全国の状況と大きな差異は見られない。収集した情報を ICT 機器を使って、どのように整理、分析するとよいかについて指導した成果が表れている。

◇今後も子ども一人一人が自分の学びをデザインし、考え続ける頭の体力を育成する過程において、効果的に ICT 機器を活用していく。

【調査結果の活用について】

【今後の取組】

☆引き続き「徹して一人を大切に」を合言葉に、安心・安全な学級・学年・学校風土を醸成し、子どもたちの心理的安全性を保障することで、子どもたちの「学ぶ力」と「自己肯定感・自己有用感」を育成していく。

☆子どもたちの自治的な活動について、①子どもの可能性を信じ抜き、②ありのままを受け入れながら、③励まし続け、④どこまでも支えながら、⑤心をつないでいく関わりを今後も続けていく。

☆見通し→行動→振り返りといった反復的な学習プロセス（AARサイクル）になるように、児童による振り返りなどが、次の学びにつながっていく学習を推進していく。

☆算数は、基礎的な学力を向上させていけるように個別のかかわりや家庭学習の充実といった取組を推進していく

☆今後も子ども一人一人が自分の学びをデザインし、考え続ける頭の体力を育成する過程において、効果的に ICT 機器を活用していく。